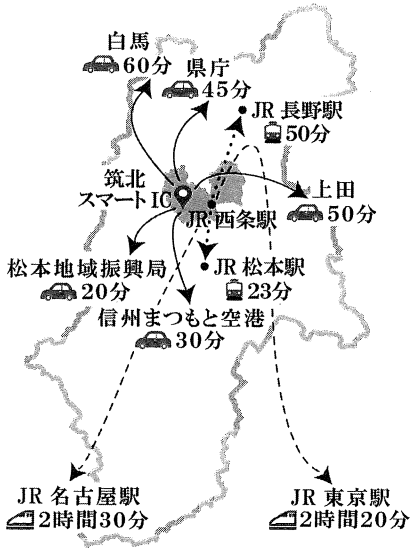
スマートインター開通を見据えた村の展望
～筑北スマートインターチェンジ～

筑北村総務課

1　はじめに

筑北村は、平成の大合併により、旧本城村、坂北村、坂井村の3村が合併して、平成17年10月に誕生しました。村は、東筑摩郡の北部に位置しており、長野市、千曲市、上田市、安曇野市、松本市、麻績村、生坂村および青木村の5市3村と隣接しています。村には、ＪＲ篠の井線の3駅（西条、坂北、冠着）があり、北陸新幹線経由で東京へ、中央西線で名古屋へそれぞれ2時間半程度でアクセスが可能です。

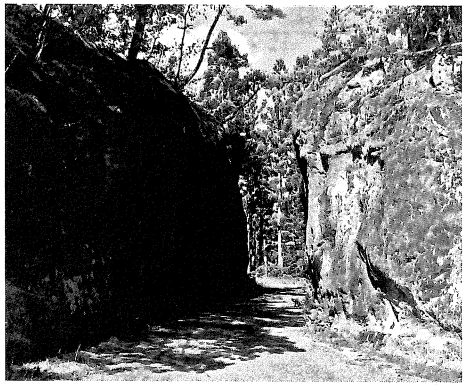
かつては善行寺街道の宿場として北信と中信を結ぶ街道として、明治期からは、ＪＲ篠ノ井線の開通に



長野県筑北村地図

より炭鉱鉱石の輸送、戦後は高原野菜の「西条白菜」の輸送路として、平成に入ってからは長野自動車道の開通と県内を縦断する交通の要衝とも言えます。その村に令和5年、新たな玄関口として「筑北スマートインターチェンジ（ＳＩＣ）」が開通します。

主要産業は農業が中心で、村内の直売所でははぜ掛け米やソバ、西条白菜など好評ではありますが、生産者の高齢化や後継者不足、有害獣被害等の問題を抱えています。



善行寺街道　青柳宿　切通

一方で、年内に完成予定の「筑北スマートインターチェンジ（ＳＩＣ）」を村の活性化にどうつなげていくかが、目下の課題です。

2　筑北ＳＩＣの紹介

長野自動車道の安曇野ＩＣと麻績ＩＣの区間は23・2kmあり、県内でも最長区間であることから、様々な利便性向上のため、平成26年（２０１４年）から各関係機関と調整のうえ、ＳＩＣ設置を国へ要望して参りました。

平成30年（２０１８年）8月に国土交通省から連結許可を受け、筑北村西条地籍に東日本高速道路株式会社と筑北村との共同で建設を進めています。

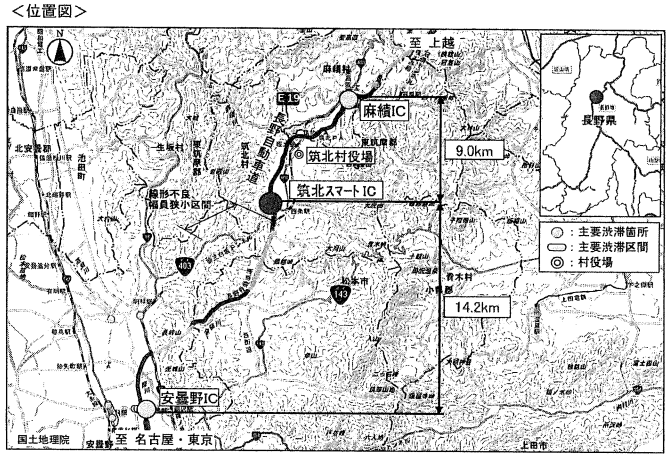
筑北ＳＩＣは、ＥＴＣ（自動料金収受システム）車載器設置車であれば全車種通行可能で、その特徴は①県内初の本線直結型ＳＩＣ、②上下線とも24時間フル方式での開放、③誤侵入防止のため料金所にラウンドアバウト（環状交差点）を採用する構造となっています。

完成は、令和5年内を予定しており、交通の利便性向上のほか、筑北ＳＩＣを利用して村内外者の利用促進を図る必要があると強く感じているところです。

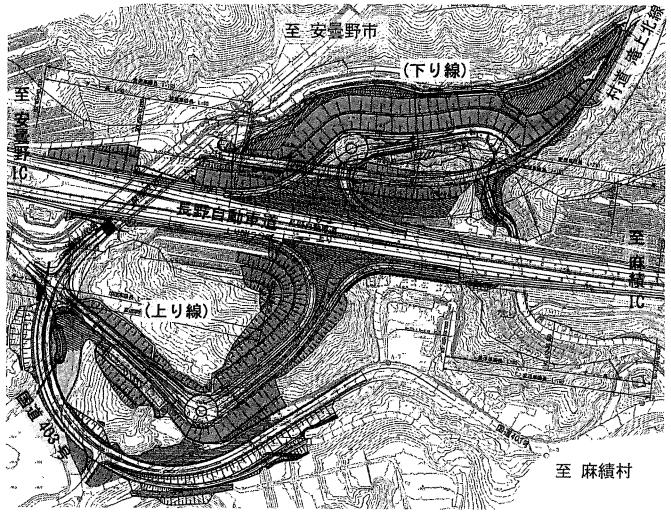
3　企業誘致の推進

筑北ＳＩＣの開通を見据え、筑北ＳＩＣ周辺に企業誘致活動をＡ区画、Ｂ区画、Ｃ区画の３区画に分けて進めています。

村では、造成地内の道路整備を今年度までに完了させる計画です。このうちＡ区画は、そば製粉工場の建設が決まっています。当該企業は５年前（平成29年）、村内でそばの栽培を４haから始め、その後、遊休農地を活用して現在27haまで拡大しています。村内に工場を建設し、栽培面積をさらに広げる意向があり、ＷＩＮ・ＷＩＮの関係が築ければと、大いに期待しています。



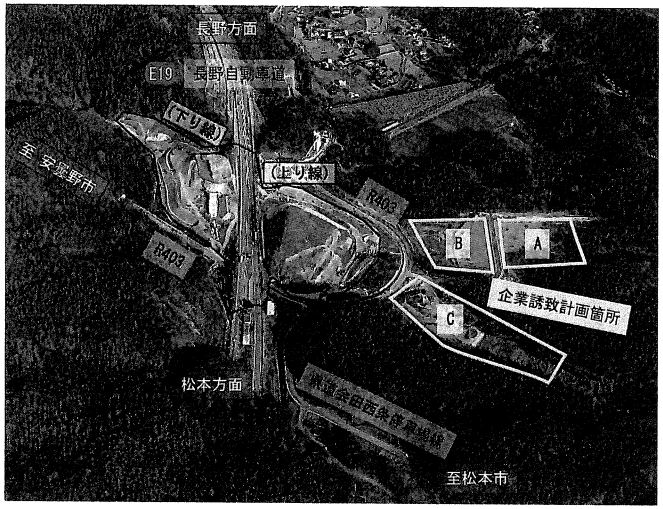
ＳＩＣ位置図



ＳＩＣ平面図

残り２区画のうちＣ区画については、進出希望の企業を募集するとともに、造成予定地の調査設計を進めています。村にとっては、大規模投資が見込まれるため、企業のニーズにできる限り沿った形で、効率的な造成ができないか検討しています。

当村は、平坦な都市部と比べ地理的条件面では不利ですが、交通アクセスが優れていることや、地価も安いこと周囲に住宅地がないことなども利点として、企業誘致を積極的に推進していく予定です。



企業誘致計画位置図

4　移住促進と空き家対策

当村は、中山間地の過疎地域で、村の人口は平成17年の合併時が6,031人でしたが、流出及び自然減により毎年約100人の人口減となっています。また、高齢化率も約48％と、極めて高い状況となっています。

転出等による人口流出に伴い空き家が増えてきたことから、平成24年度より空き家バンク制度を始めました。この11年間における契約件数は101件で、うち令和２年度以降が約半数の51件となっています。

近年、長野県への移住希望者が増加傾向にあることや、新型コロナウイルスによる地方移住・２拠点生活が顕著となっていることなどが要因と考えてい

ます。

村では、登録物件が不足しているため、空き家バンク制度の更なる周知を行い所有者へ登録を呼び掛けて行きます。さらに移住促進に向けて、移住者が住宅改修を行った場合に対する補助や、村内のゲストハウス及び民泊施設などを利用して移住体験をした場合の補助制度、空き家をＤＩＹ方式で再生する事業にも取り組んでいます。

その他、地域おこし協力隊制度の活用により移住のための相談体制を強化するとともに、空き家を活用して趣味の空間を持ったり、庭菜園を楽しんだり、或いは仲間で住宅をシェアしたり、といった活用例を発信することで移住者の増加を目指していきます。

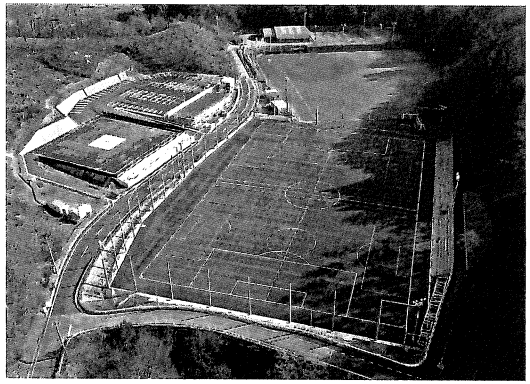
5　交流人口の増加

本村には、善光寺街道の宿場や旧跡、修那羅の石神仏群、県立公園の差切峡といった名所と、旧村単位にスポーツ施設が数多く存在しています。

これらスポーツ施設のうちサッカー場・バドミントン専用体育館を専用施設として整備しました。

中でも平成30年度に完成した人工芝のサッカー場は、特定地区公園整備事業を活用し、平常時は主にサッカー場としての利用。災害時は、住民の避難場所、救護物資の集積配送場所として利用できるよう整備しました。

新型コロナウイルス感染症予防による利用制限があったものの、サッカー場利用者数は年間約１４、０００人で、地元小中学生のサッカークラブをはじめ、中信地域の高校や社会人クラブの練習場として、



特定地区公園サッカー場周辺

また県高等学校体育連盟主催のサッカー県大会など、多くの大会も開催されています。これも当村が長野県のほぼ中央にあり、県下各地からアクセスしやすい環境にあることが考えられます。

筑北ＳＩＣの開通により、さらなる利用者の増加が見込まれるため、サッカー場周辺のｗｉ－ｆｉ環境の整備、定期的な人工芝のメンテナンスなどを行うとともに、スポーツ施設周辺の旧跡・名所巡りの日帰り観光、温泉施設と連携した滞在型観光等を提案して、経済効果の向上や地域の活性化を図っていきたいと考えています。

6　農業振興と有害獣対策

村の農業従事者の高齢化や担い手不足、また有害獣による被害により、山林沿いの農地から耕作放棄地が増加しており、このままでは圃場整備済みの優良農地も荒廃地化が進行してしまう事を懸念しています。農地管理についての相談件数も年々増えており、今後、中心経営体となる認定農業者や農業法人、企業等へ農地を集約して維持管理を委託し、耕作放棄地の解消に努めています。

また、村では振興作物として、はぜ掛け米、そば、大豆、小麦、えごま、雑穀に出荷奨励金を交付して、農業者の営農意欲の向上・維持を図り、農業を持続可能な産業となるよう支援しています。

村の面積の85％は森林であり、他市町村と同様に有害獣による被害が深刻な状況のため、離農される方も出ています。

村の有害獣対策としては、猟友会への委託による個体数の削減、電気柵等の資材への購入補助、猟友会への各種支援などのほか、シカの食害を

はぜ掛け米風景

シカ肉を使ったソーセージ

受けにくい植物「えごま」の栽培推進、ジビエを活用した食材利用や加工品等の開発を行っています。

特にシカによる被害は深刻で、被害を受ける範囲や農作物の種類が増えています。平成29年度のシカの捕獲頭数は382頭でしたが、令和3年度には、842頭と大幅に増加しました。しかし、被害の減少に繋がっていないのが実情です。

また、少子高齢化の影響から、猟友会会員の減少も課題となっていますが、地域おこし協力隊員が狩猟免許を取得して会員に加わり、今後の活躍に期待が持たれます。

なお、シカ肉を活用したジビエ料理については、「西条温泉とくら」のパスタ、「そば処さかい」の肉そば等の料理を提供しています。さらに、学校給食でもシカ肉を使った「ハンバーグ」を提供し、子ども達から好評を得ました。村内の飲食店と協力し、シカ肉を使った新たな特産品づくりに今後も取り組む予定です。

7　結びに　～魅力ある村づくりに向けて～

人口減少、少子高齢化が進むなかで、村の自主財源比率は20・4％と乏しい状況において、魅力ある村づくりを進めていくことは容易ではありません。

村民の安全安心、さらなる住民福祉の向上と、人口増対策を図るためにも、「若者定住」と「社会インフラの整備」は特に大きな課題です。「若者定住」のためには、住居と雇用の確保は欠かせない要件となります。

村の公営住宅は、ここ数年、空室がない状況で推移しており、若者向け住宅は10年近く建設がされていないこともあって、単身用住宅や戸建て賃貸住宅に対する問い合わせが多く寄せられています。

このことから、令和5年度の事業化に向けて庁内にプロジェクトチームを立ち上げ、建設用地、棟数、維持管理方法や財源など幅広く検討を行っています。

一方、「雇用の確保」は、企業誘致に関する取り組み以外に、令和4年度は、村外から4事業者の進出があり村にとって明るい兆しではあります。こうした事業者への支援を通じて、雇用の拡大を図っていきたいと考えています。

「社会インフラの整備」については、人口減少にかかわらず、道路や橋、水道設備などの維持管理は、老朽化と相まって今後ますます重要になってきます。

また、村内の幹線道路である国道403号は、悲願だった新矢越トンネルが平成29年に開通し、現在も各主要幹線道路の改修工事が長野県のご配慮の元、着々と進められています。筑北SIC開通により交通量の増加が見込まれることから、安全対策としての道路改良を国や関係機関へ要望しています。

さらには、国道143号における新青木バイパスの早期完成、主要地方道大町麻績インター千曲線における差切地籍の安全確保は、それぞれの期成同盟会を通して取り組むことで、地域住民からの強い要望を国等へ伝えると共に、更なる交通の要衝として、利便性を高めていきたいと考えています。

皆さまには、「歴史と緑、スポーツ施設の充実した村」へ是非お立ち寄りいただき、筑北村を肌で触れて頂ければ、幸いです。

修那羅石神仏